

調査結果の概要

1. 現在のすまいに対する感じ方

(1) 住宅及び住環境に対する総合評価

全県、推移

住宅及び住環境に対する総合評価についてみると、「非常に不満」が3.4%、「多少不満」が23.4%であり、不満率(「非常に不満」と「多少不満」を合わせた率)は26.8%となっている。平成10年調査では、「非常に不満」が3.9%、「多少不満」が26.8%、不満率は30.7%であり、「非常に不満」が0.5ポイントの減少、「多少不満」が3.4ポイントの減少、「不満率」が3.9ポイントの減少となっている。また、過去4回の調査結果と比較しても、平成5年に不満率がわずかに増加したものの、不満率は減少傾向にある。

一方、「非常に満足」と答えたものは11.1%であり、平成10年から2.2ポイント増加している。「まあ満足」と答えたものは60.4%であり、平成10年から0.8ポイント増加している。

(図 - 1)

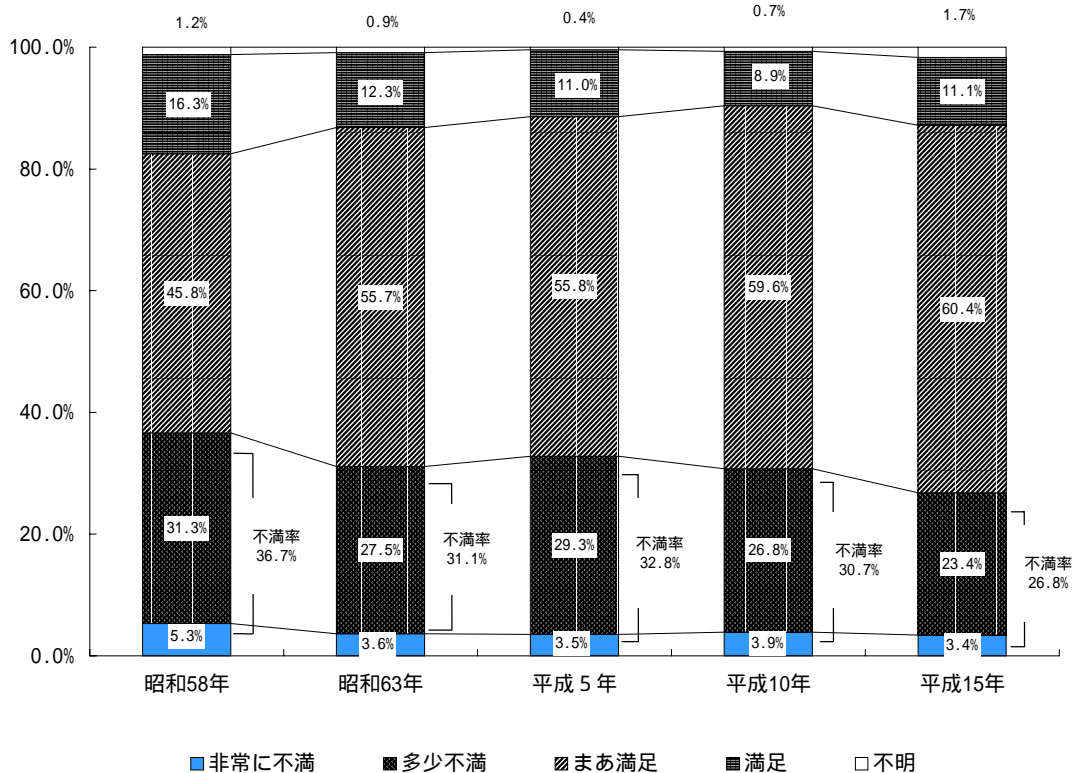


図 - 1 住宅及び住環境に対する総合評価〔山口県全体〕

圏域別、地域別

圏域別に不満率をみると、最も不満率が高いのは岩国地域の 28.6%、次いで周南地域、山口・防府地域の 27.9%である。逆に最も不満率が低いのは長門地域の 21.7%、次いで柳井地域の 23.7%、宇部・小野田地域の 25.3%の順となっている。

(表 - 1)

住宅タイプ別

住宅タイプ別に不満率をみると、持・借別では持家で 24.5%、借家で 31.7%と借家で高くなっている。持家の中では、「一戸建・長屋建」で 24.6%、「共同住宅」で 14.4%と「一戸建・長屋建」で不満率が高い。借家の中では、最も不満率が高いのは「民営賃貸住宅(一戸建・長屋建)」の 35.3%であり、次いで「民営賃貸住宅(共同住宅・非木造)」の 34.9%、「民営賃貸住宅(共同住宅・木造)」の 33.5%、「給与住宅」の 30.2%、「公団・公社等賃貸住宅」の 29.8%、「都道府県・市区町村営賃貸住宅」の 25.8%の順となっている。

平成 10 年調査では、持・借別の不満率は持家 28.8%、借家 35.5%であり、持家で 4.3 ポイントの減少、借家で 3.8 ポイントの減少となった。

(図 - 2)(表 - 2)

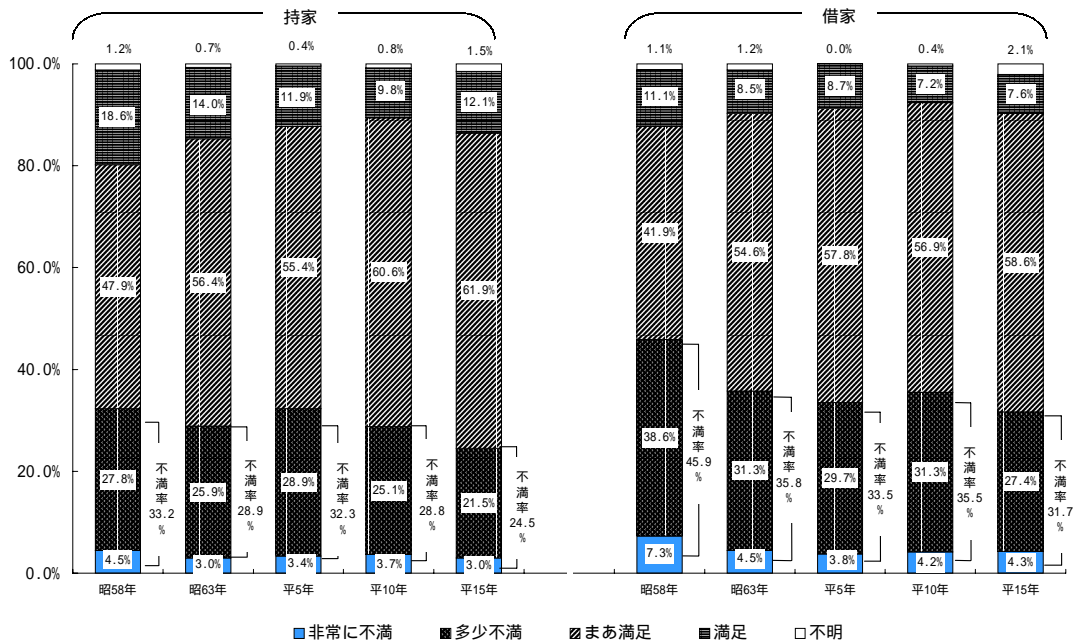


図 - 2 持家・借家別、住宅及び住環境に対する総合評価〔山口県〕

家族型別

家族型別に不満率をみると、最も不満率が高いのは「その他」の世帯の 35.2%、次いで「単身(65 歳～74 歳)」の 31.4%、「親と子(長子 5 歳以下)」の 30.0%である。逆に不満率が最も低いのは「単身(75 歳以上)」の 20.9%、次いで「夫婦のみ(家計を主に支えるものが 65 歳以上)」の 21.5%、「三世帯世帯」の 24.0%である。

(表 - 3)

(2) 住宅に対する評価、住宅の各要素に対する評価(不満率)

全県、推移

住宅に対する評価をみると、「非常に不満」が8.4%、「多少不満」が36.0%であり、不満率は44.4%となっている。平成10年調査では「非常に不満」が8.6%、「多少不満」が38.2%、不満率は46.8%であり、それぞれ0.2ポイント、2.2ポイント、2.4ポイントの減少となった。平成5年以降の調査では、回を追うごとに不満率が減少している。

住宅の各要素に対する不満率をみると、「高齢者等への配慮」に対する不満率が最も高く65.5%、次いで「住宅の防犯性」が54.5%、「冷暖房の費用負担などの省エネルギー対応」が54.2%となっている。逆に最も不満率の低い項目は「居間など主たる居住室の採光」で33.5%となっている。

(図 - 3)(図 - 4)

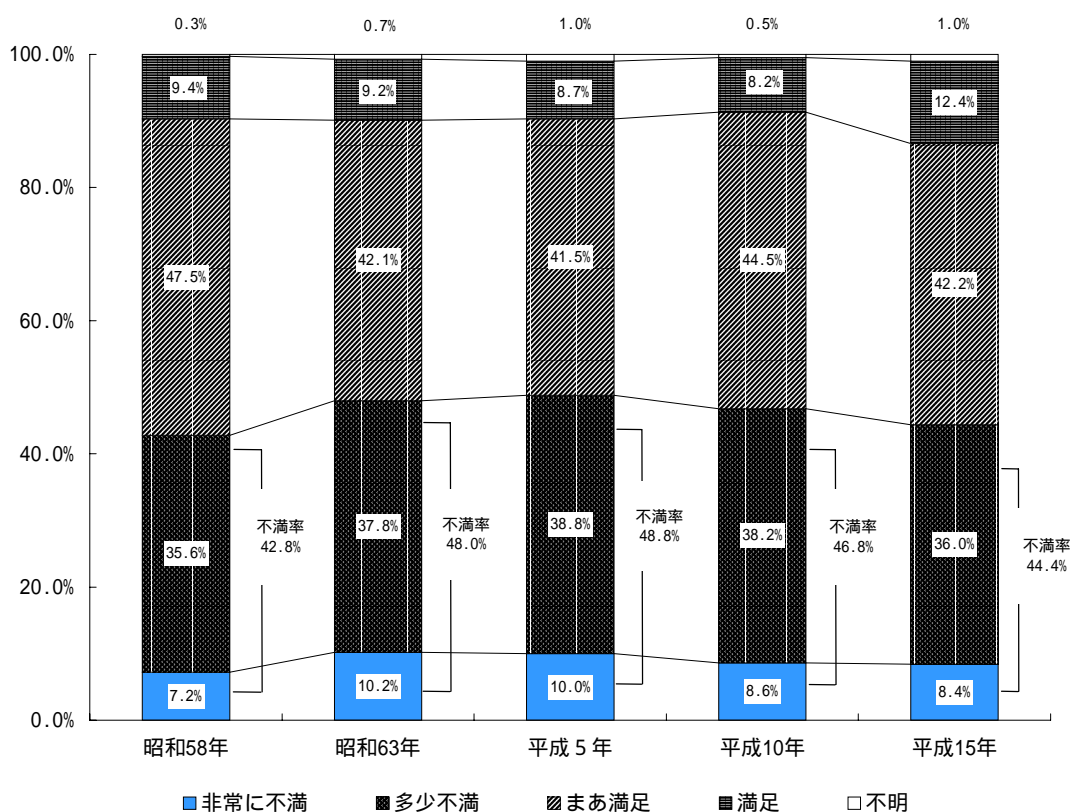
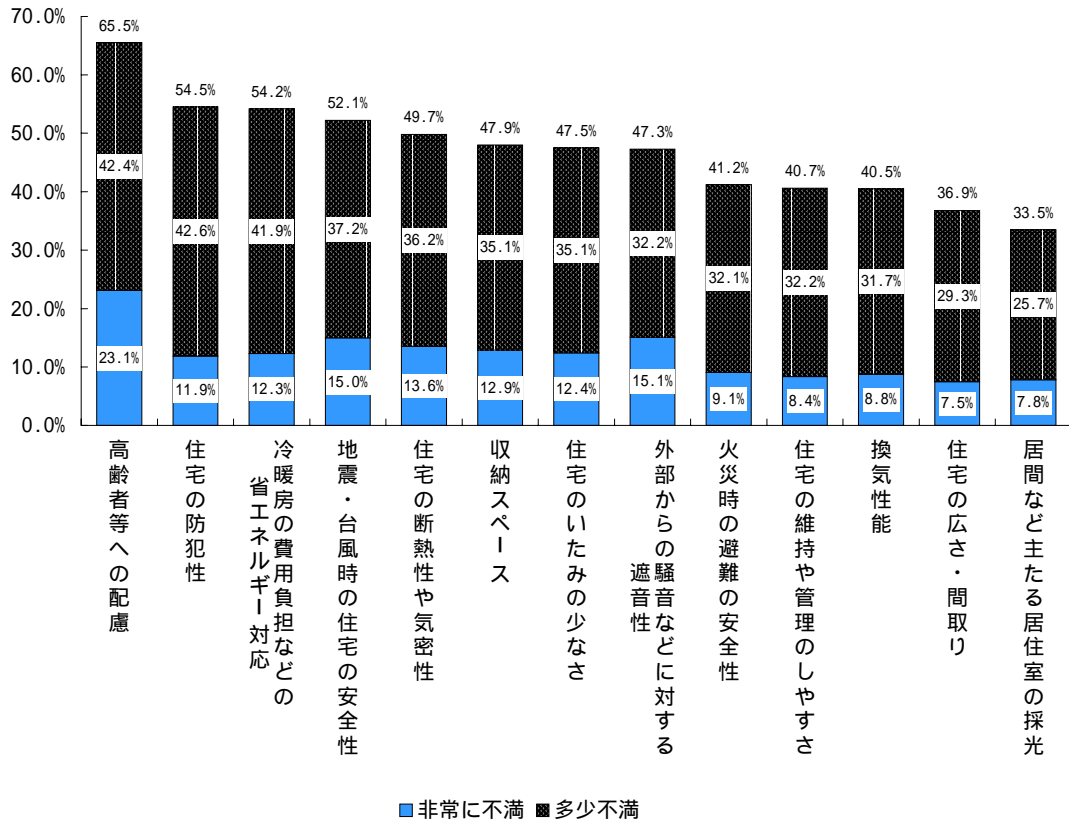


図 - 3 住宅に対する評価〔山口県全体〕

平成15年



平成10年【参考】

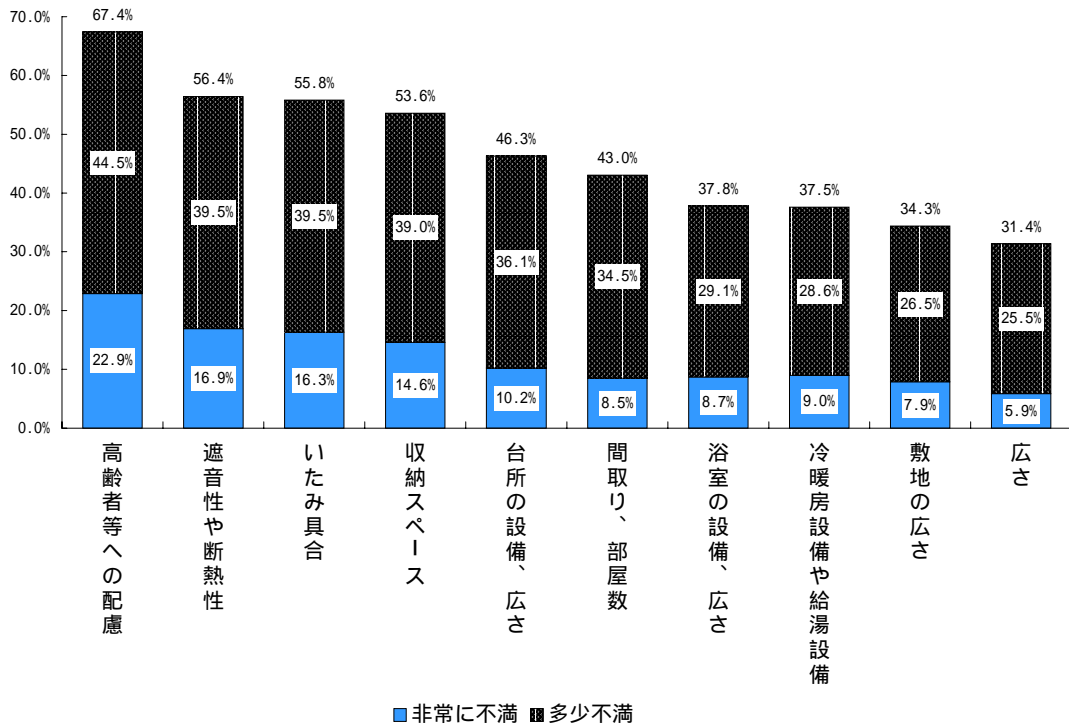


図 - 4 住宅の各要素に対する不満率〔山口県全体〕

圏域別

圏域別に住宅に対する不満率をみると、最も不満率が高いのは長門地域の 53.6%、次いで萩地域の 50.1%、周南地域の 47.4%の順となっている。逆に最も不満率が低いのは柳井地域の 40.5%、次いで山口・防府地域の 42.7%、宇部・小野田地域の 43.1%の順となっている。

住宅の各要素に対する不満率をみると、長門地域と周南地域では、多くの項目で他地域よりも不満率が高い。逆に下関地域、柳井地域では不満率の低い項目が多い。また、萩地域では「地震・台風時の住宅の安全性」、「火災時の非難の安全性」で不満率が高くなっている。

不満率の地域差をみると、最も地域間の差が大きいのは「住宅のいたみの少なさ」についてで、最も不満率が高い長門地域(62.4%)と最も不満率が低い下関地域(42.4%)で 20.0 ポイントの差がある。反対に、地域間の差が小さいのは「住宅の広さ・間取り」についてで、最も不満率が高い長門地域(39.7%)と最も不満率が低い岩国地域(34.8%)で、4.9 ポイントの差となっている。

(表 - 1)(表 - 4)

住宅タイプ別

住宅タイプ別に住宅に対する不満率をみると、持・借別では持家で 41.2%、借家で 51.3%と借家で高くなっている。平成 10 年調査では、住宅に対する不満率は持家で 42.9%、借家で 56.4%であり、それぞれ 1.7 ポイント、5.1 ポイント減少している。

持家の中では、「一戸建・長屋建」で 41.5%、「共同住宅」で 24.1%であり、平成 10 年調査(一戸建・長屋建：43.1%、共同住宅：34.5%)と比較すると、「共同住宅」の不満率が 10.4 ポイントと大きく減少しているのが特徴である。借家の中では、最も不満率が高いのは「民営賃貸住宅(一戸建・長屋建)」で 64.9%、次いで「公団・公社等の賃貸住宅」の 62.6%、「都道府県・市区町村営賃貸住宅」の 52.8%、「給与住宅」の 52.1%の順になっている。

住宅の各要素に対する不満率をみると、「地震・台風時の住宅の安全性」と「住宅の維持や管理のしやすさ」を除くほとんどの項目について、借家の不満率が持家の不満率を上回っている。持・借間の不満率の差は「換気性能」が 24.0 ポイントと最も大きく、次いで「外部からの騒音などに対する遮音性」、「冷暖房の費用負担などの省エネルギー対応」、「住宅の断熱性や気密性」の順であり、これらの項目は全て持借の差が 10 ポイントを超えている。これに対して、「地震・台風時の住宅の安全性」、「住宅の維持や管理のしやすさ」、「高齢者等への配慮」では持借の不満率の差は小さい。

持家の中で、「一戸建・長屋建」と「共同住宅」を比較すると、「火災時の避難の安全性」、「収納スペース」、「換気性能」、「高齢者等への配慮」といった項目については「共同住宅」の不満率が高くなっている。また「住宅の断熱性や気密性」、「住宅の維持や管理のしやすさ」、「冷暖房の費用負担などの省エネルギー対応」については「一戸建・長屋建」での不満率が高くなっている。

借家の中では、「民営賃貸住宅(一戸建・長屋建)」では多くの項目で不満率が高くなっているのに対して、「民営賃貸住宅(共同住宅・木造)」、「民営賃貸住宅(共同住宅・非木造)」では多くの項目で不満率が低い。

(図 - 5)(表 - 2)(表 - 5)

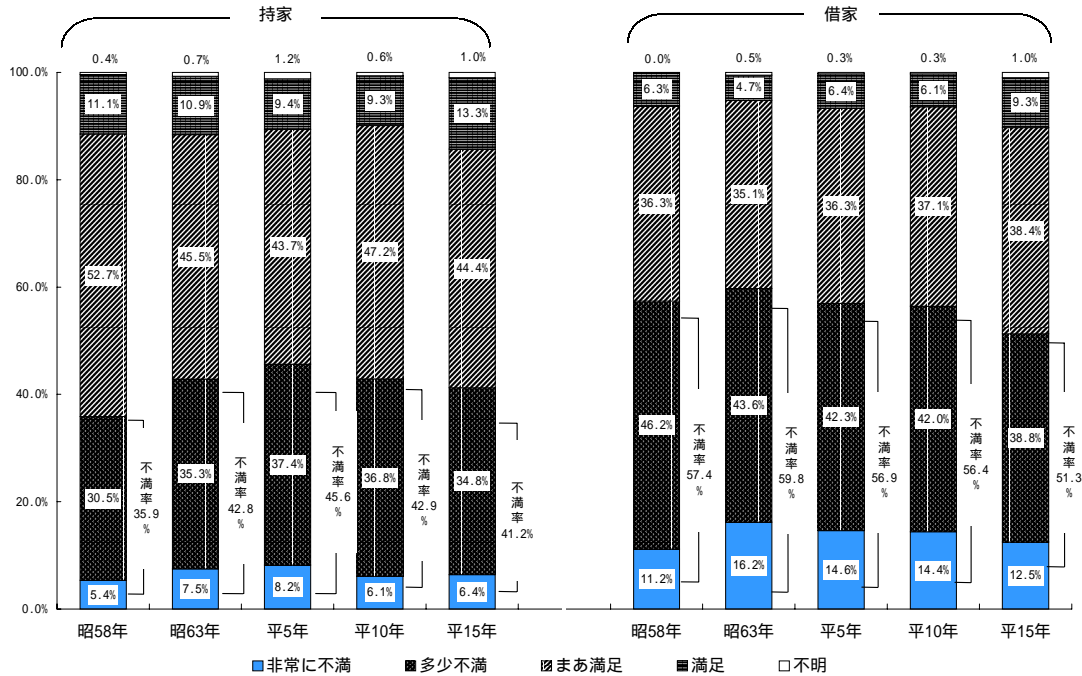


図 - 5 持家・借家別、住宅に対する評価〔山口県〕

家族型別

家族型別に住宅に対する不満率をみると、「その他」の世帯で 64.9%と高いほか、「親と子(長子 5 歳以下)」の 54.3%、「親と子(長子 18 歳～24 歳)」の 52.5%、「親と子(長子 12 歳～17 歳)」の 49.7%など、「親と子」タイプの世帯で不満率が高くなっている。

逆に不満率が低いのは「単身(35 歳未満)」の 26.8%、次いで「単身(75 歳以上)」の 35.2%、「夫婦のみ(家計を主に支えるものが 65 歳以上)」の 37.3%となっている。

住宅の各要素に対する不満率は、「その他」と「単身(65 歳～74 歳)」の世帯では概して不満率の高い項目が多く、「単身(75 歳以上)」、「夫婦のみ(家計を主に支えるものが 65 歳以上)」の世帯では、各項目とも不満率が低い傾向にある。

(表 - 3)(表 - 6)

(3) 住環境に対する評価、住環境の各要素に対する評価(不満率)

全県、推移

住環境に対する評価をみると、「非常に不満」が6.5%、「多少不満」が24.6%であり、不満率は31.1%となっている。

平成10年調査では「非常に不満」が4.1%、「多少不満」が28.4%、不満率は32.5%であり、それぞれ2.4ポイント増加、3.8ポイント減少、1.4ポイント減少となっている。

前回の調査と今回の調査を比較すると、「満足」と答えた世帯が8.9%から15.7%と6.8ポイント増加していることが特徴的である。

住環境の各要素に対する不満率は「子供の遊び場・公園など」が45.1%で最も高く、次いで「まわりの道路の歩行時の安全性」が42.5%、「火災・地震・水害などに対する安全」が41.5%の順となっている。不満率の低い項目としては、「近隣の人たちやコミュニティとの関わり」、「緑・水辺など自然とのふれあい」、「通勤・通学などの利便」があげられる。

(図 - 6)(図 - 7)

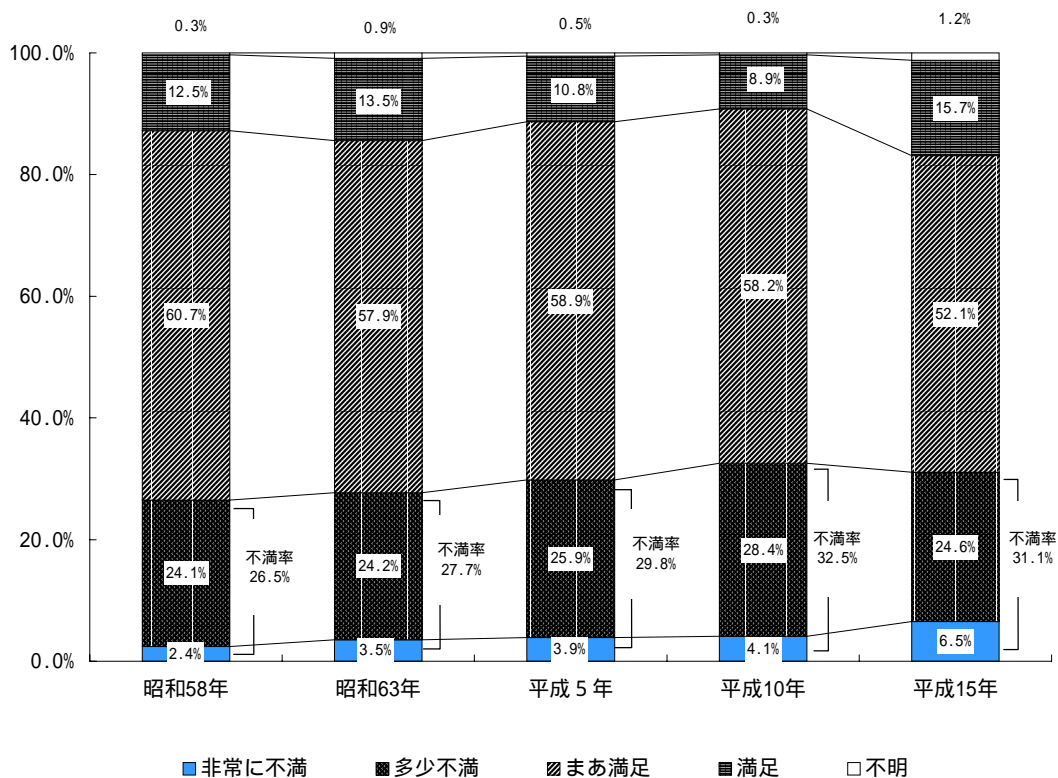
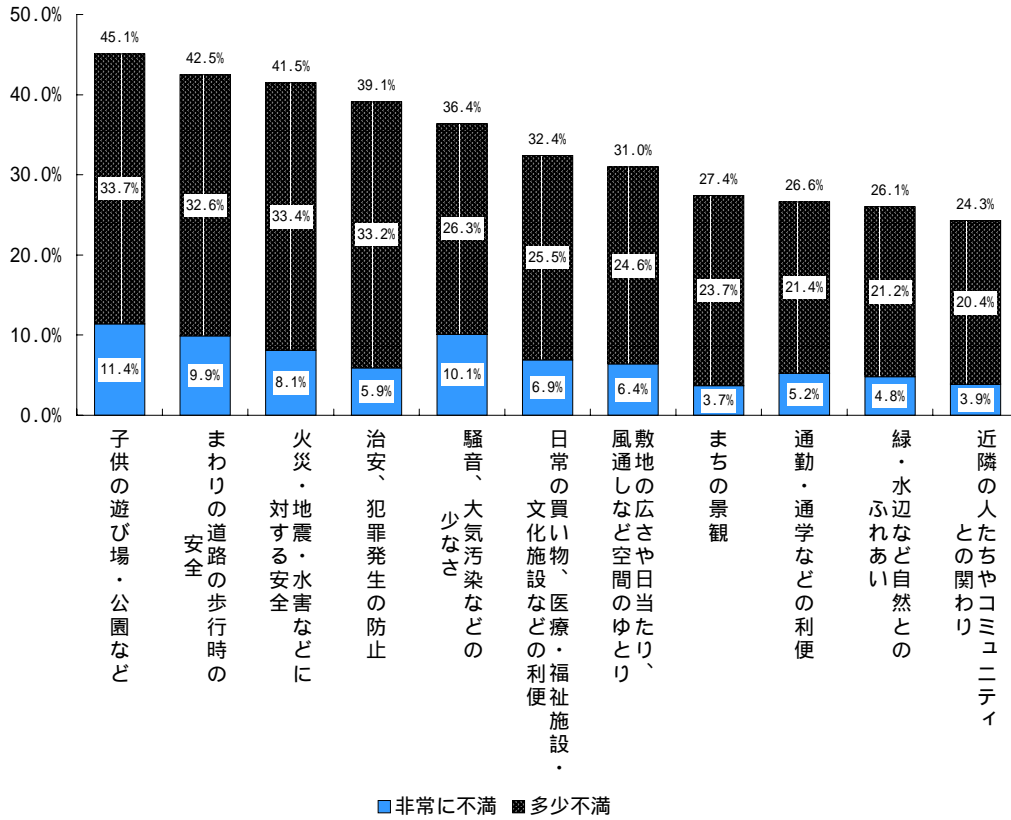


図 - 6 住環境に対する評価〔山口県全体〕

平成15年



平成10年【参考】

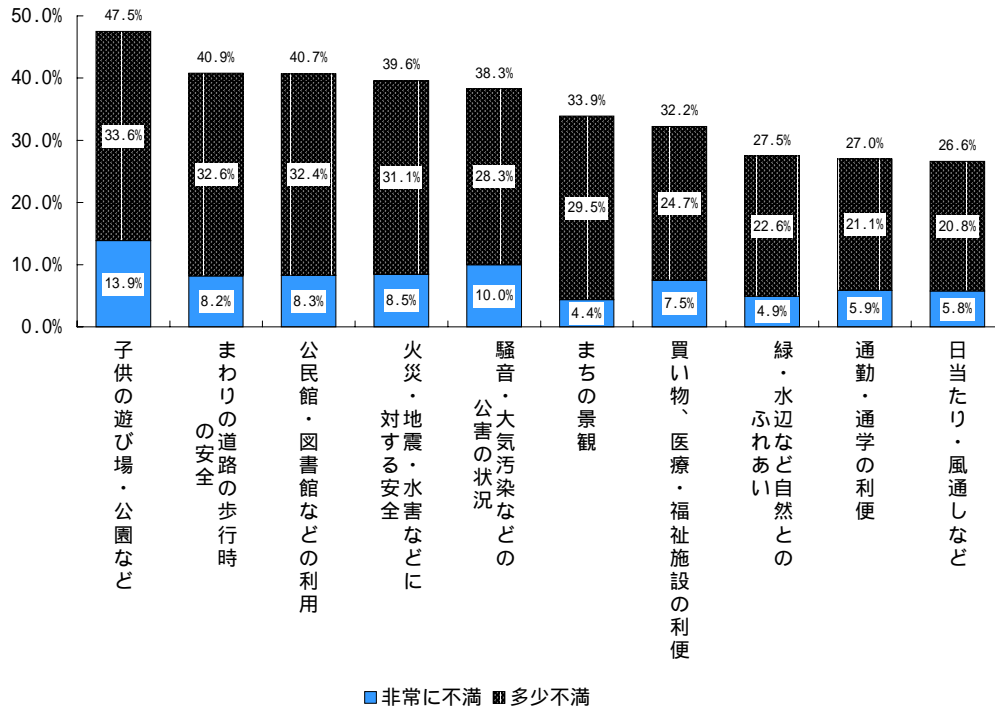


図 - 7 住環境の各要素に対する不満率〔山口県全体〕

圏域別

圏域別に住環境に対する不満率をみると、最も不満率が高いのは長門地域の 37.3%、次いで周南地域の 32.2%、岩国地域の 31.9%である。逆に最も不満率が低いのは萩地域の 28.4%、次いで宇部・小野田地域の 29.8%、山口・防府地域の 30.2%の順となっている。

住環境の各要素に対する不満率は、「火災・地震・水害などに対する安全」、「子供の遊び場・公園など」、「日常の買い物、医療・福祉施設・文化施設などの利便」、「近隣の人たちやコミュニティとの関わり」については長門地域で最も高く、「緑・水辺など自然とのふれあい」「敷地の広さや日当たり、風通しなど空間のゆとり」「まちの景観」については岩国地域で最も不満率が高くなっている。一方、柳井地域では多くの項目で他地域に比べて不満率が低い。

圏域間で不満率の差が大きい項目は「日常の買い物、医療・福祉施設・文化施設などの利便」、「騒音、大気汚染などの少なさ」、「火災・地震・水害などに対する安全」である。「日常の買い物、医療・福祉施設・文化施設などの利便」に対する不満率は、最も不満率が高い長門地域(46.4%)と最も不満率が低い下関地域(25.2%)の間で 21.2 ポイントの差がある。「騒音、大気汚染などの少なさ」に対する不満率は最も高い周南地域が 41.9%、最も低い長門地域が 24.9%であり、17.0 ポイントの差がある。「火災・地震・水害などに対する安全」に対する不満率は最も高い長門地域が 52.2%、最も低い柳井地域が 35.9%であり、16.3 ポイントの差がある。

また、全体では「子供の遊び場・公園など」への不満率が最も高くなっているが、周南地域では「まわりの道路の歩行時の安全」への不満率が最も高くなっている。

(表 - 1)(表 - 7)

住宅タイプ別

住宅タイプ別に住環境に対する不満率をみると、持・借別では持家で 29.6%、借家で 34.7%と借家で高い。

持家の中では、「一戸建・長屋建」が 29.7%、「共同住宅」14.6%であり、「一戸建・長屋建」で不満率が高い。借家の中では、最も不満率が高いのは「民営賃貸住宅(共同住宅・木造)」の 44.6%、次いで「民営賃貸住宅(一戸建・長屋建)」の 35.3%、「民営賃貸住宅(共同住宅・非木造)」及び「都道府県・市区町村営賃貸住宅」の 34.5%となっている。平成 10 年調査と比較すると、持家で 2.5 ポイント減少し、借家で 0.9 ポイント増加している。

住環境の各要素に対する不満率をみると、持・借別では「通勤・通学などの利便」、「日常の買い物、医療・福祉施設・文化施設などの利便」、「子供の遊び場・公園など」「まちの景観」で持家の不満率が高く、その他の項目では借家の不満率が高い。

特に「近隣の人たちやコミュニティとの関わり」、「騒音、大気汚染などの少なさ」については借家の不満率が高く、持家の不満率との差が 10 ポイント以上となっている。

持家の中では、「まわりの道路の歩行時の安全」、「騒音、大気汚染などの少なさ」

については「共同住宅」の不満率が高いが、他の項目では「一戸建・長屋建」の不満率が高い。

借家の中で、特に住宅タイプ間での差が大きいのは、「子供の遊び場・公園など」、「火災・地震・水害などに対する安全」、「騒音、大気汚染などの少なさ」、「まちの景観」で、いずれも最も不満率の高い住宅タイプと最も不満率の低い住宅タイプで20ポイント以上の開きがある。「子供の遊び場・公園など」と「まちの景観」は「民営賃貸住宅(共同住宅・木造)」の不満率が最も高く、「公団・公社等の賃貸住宅」の不満率が最も低い。一方、「火災・地震・水害などに対する安全」は「公団・公社等の賃貸住宅」が最も不満率が高く、「民営賃貸住宅(共同住宅・木造)」の不満率が最も低い。「騒音、大気汚染などの少なさ」は「民営賃貸住宅(共同住宅・木造)」が最も不満率が高く、「都道府県・市区町村営賃貸住宅」の不満率が最も低い。

(図 - 8)(表 - 2)(表 - 8)

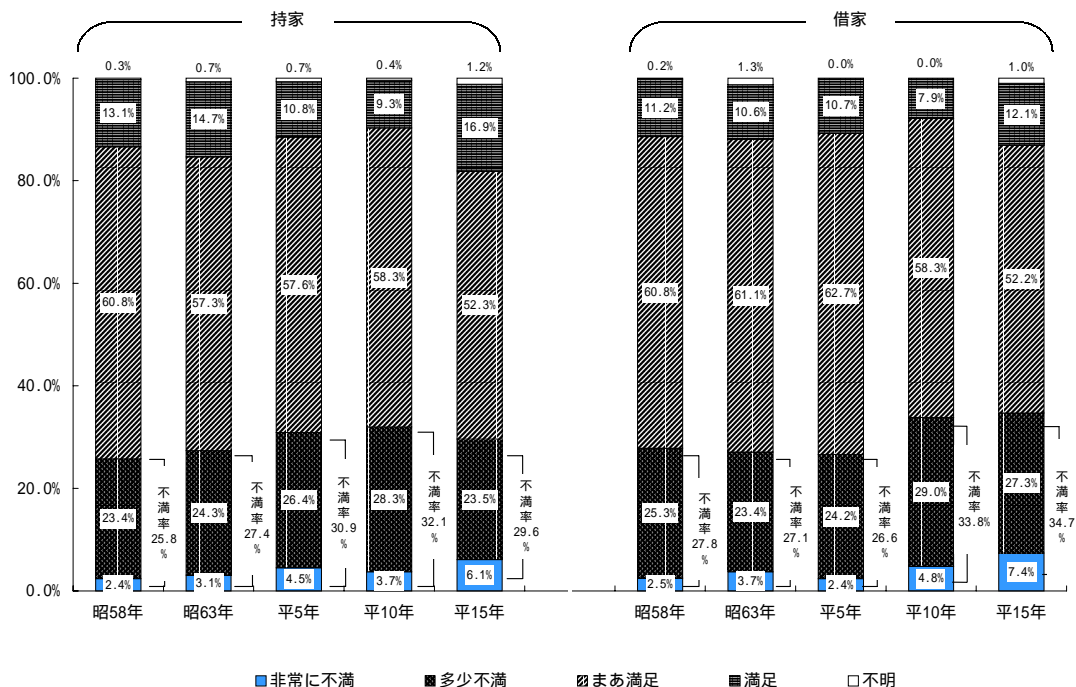


図 - 8 持家・借家別、住環境に対する評価〔山口県〕

家族型別

家族型別に住環境に対する不満率をみると、「その他」の世帯で最も高く38.8%、次いで「親と子(長子6歳~11歳)」の35.5%、「親と子(長子18歳~24歳)」の34.4%である。逆に最も低いのは「単身(75歳以上)」の25.6%、次いで「夫婦のみ(家計を主に支えるものが65歳以上)」の27.1%、「親と子(長子5歳以下)」の27.7%である。

住環境の各要素に対する不満率をみると、「単身(65歳~74歳)」や「その他」の世帯では多くの項目について不満率が高くなる傾向がある。これに対して、「単身(75歳以上)」では他の家族型と比べて不満率の低い項目が多い。

家族型間で住環境の各要素に対する不満率の差が大きい項目は、「近隣の人たちや

コミュニティとの関わり」、「騒音、大気汚染などの少なさ」、「通勤・通学などの利便」、「日常の買い物、医療・福祉施設・文化施設などの利便」、「まわりの道路の歩行時の安全」などである。「近隣の人たちやコミュニティとの関わり」については「単身(35歳未満)」の不満率が最も高く、「複合世帯」の不満率が最も低い。「騒音、大気汚染などの少なさ」「まわりの道路の歩行時の安全」、「通勤・通学などの利便」については「その他」の世帯、「日常の買い物、医療・福祉施設・文化施設などの利便」については「単身(65歳～74歳)」で不満率が最も高くなっている。

(表 - 3)(表 - 9)